

2019年入試予測【埼玉県 男女校】

中学校名	市	主な入試の変更点と予測
市立大宮国際	さいたま市	新たな公立中高一貫校として2019年に開校。高校募集がない完全中高一貫校。受験生の関心も高く、模試では同校を希望先として記入する受験生も少なくない。ただ、出願資格がさいたま市在住か転入予定者に限られるため、人気はさいたま市内に限られている。第1次の適性検査の合格者に第2次の適性検査を実施する2段階選抜で、第1次は市立浦和と日程が異なるため、併願も可能。適性検査に英語も含まれることから、特に難関校向けの進学塾では抵抗感を感じている受験生もいるようだが、市内公立小学校で体験している程度の難度が見込まれるので、あまり気にしていない受験生も多い様子。第1次については市立浦和と併願できることから、多くの応募者が見込まれるが、難度面では高くても市立浦和並みだと思われる。
栄東	さいたま市	例年1万人超の応募者を集める学校。1月18日の東大Ⅱで4科の他に算数1科も選択可能になる。模試での希望者数には目立った動きは見られないが、土佐塾の東京入試が廃止されることもあって、東京・神奈川・千葉の難関・上位校を目指す受験生が併願先として受験し、1万人を超えるマンモス入試が再現しそう。ただ、併願受験生が多く、基準点をとれば合格なので、難度は特に変わらず、今春並みが続きそう。
開智	さいたま市	先端A・Bの入試日程を繰り上げるが、入試情勢への影響はあまり大きくない。模試では希望者が増加していて人気が上がっているが、併願受験生が多い。1月10日と12日の一貫コースは若干難化するかもしれないが、先端各回は2018年並みの難度だと思われる。
大宮開成	さいたま市	特進コースを募集停止とし、英数特科コースに統一、2月4日の最終回の入試は特待・特進入試だったが、英数特科入試に変更する。向上した大学合格実績を背景に、1ランク上の進学校に変化しようとしている。こうした姿勢が歓迎されて、模試では希望者が増えている。併願受験生も多いが、2019年はこれまでの特進のレベルでは合格が難しくなりそう。英数特科の各回次は今春とあまり変わらない難度が見込まれるが、特待入試はやや難化するかもしれない。
埼玉栄	さいたま市	医学コース入試・難関大コース入試を増設、1月12日を除いて10日から14日まで毎日医学・難関大・進学的全コースの入試を実施する。また、英語入試を帰国生のみの有資格者入試に変更する。模試では各コースの希望者数に目立った動きは見られない。医学・難関大コースの入試は増設することもあるが、応募者が増えるかもしれないが、各コース・各回次ともに難度は2018年とあまり変わらない水準が見込まれる。

中学校名	市	主な入試の変更点と予測
浦和実業	さいたま市	適性検査型1回や英語入試の日程を1日ずつ繰り上げるほか、1月21日の3回を19日に繰り上げるなどの変更がある。模試での希望者数にはあまり目立った動きは見られないが、新設の市立大宮国際との併願前提の受験生が増えそう。もともと都内の中堅各校との併願受験生が多数派の学校なので、応募者が増えるようなことがあっても、各回次とも難度は2018年並みが続きそう。
青山学院大学系属浦和ルーテル学院 (現・浦和ルーテル)	さいたま市	大きな変更として、青山学院大の系属校となり、「青山学院大学系属浦和ルーテル学院」という校名に変更予定。入試日程、科目なども一部変更される。希望者が増えている模試は見られるものの、いきなり立教新座のような人気にはならないと思われる。とにかく規模が小さいことから、各回の難度は2018年並みか、上がったとしても小幅になりそう。
市立浦和 (公立一貫校)	さいたま市	曜日の関係で選抜日程が1日繰り上がる。模試での希望者数に目立った動きは見られない。新設の市立大宮国際との1次併願が可能なることから、応募者は少し増えるかもしれないが、最終的な難度は2018年とあまり変わらないと思われる。
埼玉大附属 (国立)	さいたま市	入試の変更点はなし。人気に目立った変化はなく、2018年並みの難度になりそう。
武南	蕨市	1月10日午前に1回と並行実施で適性検査型入試を新設するほか、2月の入試を廃止、1月12日の2回と15日の3回は2科4科選択から2科とし、さらに3回は面接を実施する。こうした施策が受験生に支持されたようで、やや希望者が増えている模試も見られる。3回は面接を実施することもあって、学力的に今一歩でも合格する可能性が出ている。それ以外の各回次は、適性検査型も含め、難度は2018年並みになりそう。
国際学院	北足立郡伊奈町	入試内容に色々の変更はあるが、立地もあって人気に変化は見られない。各回次とも2018年並みの難度が続くと思われる。
伊奈学園 (公立一貫校)	北足立郡伊奈町	曜日の関係で選抜日程が1日繰り上がる。模試での希望者数に目立った動きは見られない。2018年並みの難度になるとと思われる。
獨協埼玉	越谷市	入試の変更点はなし。模試の希望者数が少し増えて人気が上がっている。都内校との併願受験生も多いが、やや難化する可能性もある。
春日部共栄	春日部市	1月11日の2回で午前入試を2科4科から4科のみとし、午後は逆に4科を2科4科に変更、3回は1月15日午前から13日午前に繰り上げ、2月の4回は4日午前を3日午後に移して4科から2科にする。いずれも併願受験生の動きを意識した変更。模試では希望者数に目立った動きはなく、各回次とも2018年並みの難度が続きそう。
昌平	北葛飾郡杉戸町	入試の変更点はなし。伸びている進学実績を背景に人気は上がっているが、難度は各回次とも2018年並みになりそう。

中学校名	市	主な入試の変更点と予測
開智未来	加須市	1月11・12日午前の探究型入試を10・11日と、1日ずつ繰り上げる。探究型の学びを前面に打ち出していて、大学合格実績が伸長していることもあり、模試では希望者数が増加傾向。しかし、併願受験生が多いこともあって、各回次とも難度は特に変化がなさそう。
本庄東高附属	本庄市	曜日の関係で3回の日程を1日繰り上げるが、目立った変更ではない。模試では目立った希望者数の変化は見られず、各回次とも2018年並みの難度になりそう。
本庄第一	本庄市	2019年で開校3年目を迎える新しい学校。2・3回の入試が1日繰り上がるが、入試情勢への影響はない。各回次とも2018年並みの難度が続くそう。
東京成徳大深谷	深谷市	3・4回の入試日程が1日繰り上がり、適性検査型を取りやめる。2013年に入学した中学開校1期生がまだ高校を卒業していない、評価はこれからの学校。各回次とも2018年並みの難度が続くそう。
西武文理	狭山市	1月17日の得意教科入試を同日の英語入試と1月12日午後の算数入試とに分割、2月の入試を再開して2科または算数が英語の1教科で5日午後を実施するなどの変更がある。模試では希望者数に目立つ動きはなく、新設の入試も含めて、各回次とも2018年並みの難度が続くそう。
星野学園	川越市	入試の変更点はなし。希望者が少し増えている模試もあるが、都内各校との併願が多いこともあって、各回次とも難度に変化はなさそう。
秀明	川越市	入試日程などに一部変更はあるが、人気に動きは見られない。人気は固定化しているので、難度に変化はなさそう。
狭山ヶ丘高附属	入間市	入試の変更点はなし。模試での希望者数に目立った変化は見られず、各回次と2018年並みの難度になりそう。
西武台新座	新座市	入試の変更点はなし。模試での希望者数に目立った変化は見られず、各回次と2018年並みの難度になりそう。
聖望学園	飯能市	主に併願受験生向けの、さまざまな入試の変更を行うが、入試情勢にはあまり影響なし。模試での希望者数にも目立つ動きは見られず、応募者は増えるかもしれないが、難度面では各回次とも、あまり変化はなさそう。
自由の森学園	飯能市	入試日程などに一部変更はあるが、人気に動きは見られない。人気は固定化しているので、難度に変化はなさそう。
細田学園	志木市	高校単独校として大学合格実績が上がってきたところで、さらに引き上げるために2019年に中学を開校。模試では中堅の学力層を中心に希望者が出ているが、他校も含めて併願校選びの中で位置付けている希望者も多い。初年度なので、各回次ともそれほど高い難度にはならないと思われる。

中学校名	市	主な入試の変更点と予測
東京農大第三	東松山市	1月10日午後の特待入試を、総合理科の他にことば力入試も新設して選択制とするほか、4回の日程を1月27日から26日に動かすが、入試情勢に与える影響は大きくない。模試の希望者数にも特に変化は見られず、各回次とも2018年並みの難度になりそう。
埼玉平成	入間郡毛呂山町	1月10日午前の英語入試を午後に移して会話を含む英語と科学実験観察の選択制とする、13日の適性検査型を廃止するなどの変更があるが、立地もあって、入試情勢に与える影響は大きくない。模試の希望者数にも特に変化は見られず、各回次とも2018年並みの難度になりそう。